

排水対策を事前に行い、適期播種に努めましょう。

1. 排水対策

＜圃場周辺の明渠設置 ・圃場内の排水溝設置 ・サブソイラ等による心土破碎＞

そばは湿害に弱い作物です。特に生育初期の停滞水は出芽・生育を阻害し、収量にも大きく影響します。

出芽・生育確保のためのポイントは、圃場表面に水を停滞させないことです。播種前に、下図を参考にして排水対策を徹底し、出芽率の低下を防ぎ、初期生育を確保しましょう。

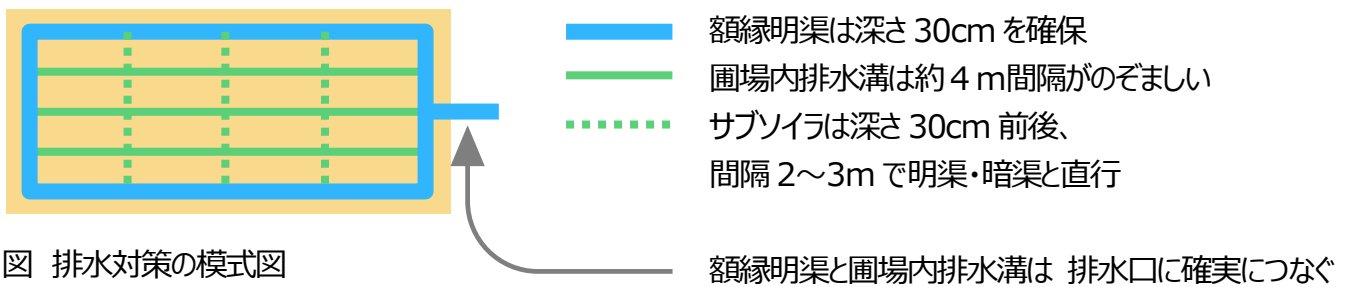


図 排水対策の模式図

2. 耕起作業

＜碎土率：1cm以下の土塊率60%以上＞

大きな土塊は、そばの出芽率低下や雑草増加の原因となります。現在、雑草の発生がみられる圃場では、圃場の乾き具合をみながら事前耕起ですき込みましょう。

また、直径1cm以下の土塊が60%以上になるよう、丁寧な耕起作業で碎土率を高めましょう。圃場が乾燥している時に耕起作業を行うと碎土率が高まります。



3. 施肥管理

＜基準施肥量（成分10aあたり）：窒素2～4kg・リン酸6～9kg・カリ6～9kg＞

そばはやせた土でも比較的良く育つ作物ですが、生育・収量を確保するためには適正な施肥量が必要です。ただし、過度の窒素施用は徒長・倒伏の原因になるので、圃場の地力に応じた窒素施用量の調整が必要です。特に、野菜の後作の場合は窒素を施肥せず、リン酸・カリのみを施用します。

また、そばは酸性土壌（pH4.5以下）で生育が阻害されます。土壌分析の結果、pH4.5以下の圃場も確認されております。そのような圃場では石灰資材でpH6.0程度に調整しましょう。

4. 播種作業

＜播種適期：平坦部 8月1日～10日頃、中山間・山間部 7月25日～8月5日＞

＜基準播種量（10aあたり）：散播 7～8kg、ドリル播き 5～6kg＞

そばの早播きは徒長・倒伏をまねき、一方遅播きは生育量が減少し減収につながります。m²当たり苗立数150本程度の確保を目標に、適期・適量播種につとめましょう。

散播の場合、播種後にロータリーや代かきハローで深さ5cm程度に混和します。ドリル播きの場合、条間が広すぎると雑草が繁茂するため、20～30cmとします。

昨年のような播種直後の降雨や停滞水は、出芽率を極端に低下させます（下表）。天気予報等を確認し、播種作業を行いましょう。

表 播種直後の湛水処理とそばの出芽率（長野県中信農試）

湛水条件	出芽率 (%)
湛水なし	87
1日湛水	26
3日湛水	3

※播種直後湛水処理

※ 畑作物直接支払交付金のそばの数量払いの交付単価

1俵当たりの数量払は【1等；17,470円、2等；15,360円】。収量・品質を確保し、経営の安定につとめましょう。

農作業は、心と身体にゆとりをもって行いましょう。